

会 議 録

会議名	令和4年度第1回目黒区住宅政策審議会
日時	令和4年5月24日（火）午後4時00分～午後5時00分
場所	目黒区総合庁舎本館4階 特別会議室
出席者	<p>1 委員（15名） 中島明子、村山武彦、山本美香、鈴木まさし、いいじま和代、橋本しょうへい、松嶋祐一郎、青木英太、山岸美喜男、鈴木史高、味戸吉春、東川邦昭、垂井晃一、越澤明、増田朝子（敬称略）</p> <p>2 区（事務局） 都市整備部長、住宅課長、事務局</p>
欠席者	葉袋奈美子
傍聴者	3名
配布資料	<p>【当日配布資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料1 目黒区の住宅政策のあり方について（諮問） ○資料2 目黒区住宅マスタープラン改定の進め方について ○資料3 目黒区住宅マスタープラン〔第6次〕施策進捗状況（令和3年度） ○参考資料1 目黒区住宅基本条例 ○参考資料2 目黒区住宅政策審議会規則 ○参考資料3 会議の公開に関する要綱 ○参考資料4 住宅政策審議会に係る会議録の作成方法及び会議録、会議資料の情報公開に関する取扱いについて ○令和4年度第1回目黒区住宅政策審議会座席表 ○目黒区住宅政策審議会委員名簿 ○目黒区住宅マスタープラン〔第6次〕（本編）
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 議題 目黒区の住宅政策のあり方について（諮問）</p> <p>3 報告 目黒区マスタープラン〔第6次〕の施策進捗状況について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
会議の結果及び主な意見（要旨）	<p>1 開会 会議録署名委員として会長と山本委員を指名、傍聴は3名を承認。</p> <p>会長 コロナ禍で、住宅に困窮する方が増えたり、暮らし方やライフスタイルの変容が起こったりしている。今までと違った視点も持って、住宅政策について考えていく必要がある。</p> <p>本審議会では、今後目黒区がどのような住宅政策を進め、取組をより豊かにしていけばよいのか考えていくこととなる。私が考える住宅政策</p>

の目的は、単に住宅数を充足するだけではなく、個々人の生活の質をどのように向上させるか、そのためにどのような住宅や住環境・コミュニティを用意するかだと思っている。

現行計画は「みんなでつくる」という基本方針でつくられており、今回は新しい状況の中でそれをどう発展させるか考えていく必要がある。委員の皆さんからお知恵をいただきながら、策定に向けて取り組んでいきたい。

2 議題

目黒区の住宅政策のあり方について（諮問）

区長（代理：都市整備部長） 中島会長に「目黒区の住宅政策のあり方について」を諮問。

住宅課長 《「資料2 目黒区住宅マスタープラン改定の進め方について」により説明》

会長 諮問の内容について説明いただいた。小委員会で議論し、審議会の場で報告する形で議論を深めたいとのことであった。小委員会の委員については、学識経験者を中心に進め、議題に応じて他の委員にも適宜ご参加いただくことも検討する。小委員会の委員長は、村山副会長にお願いしたい。

今後のスケジュールは、先ほど事務局から説明のあったとおり、令和5年8月頃に住宅マスタープランの策定を予定している。

事務局から追加説明はあるか。

事務局 日程の詳細は現在調整中だが、今後は2～3か月に1回程度会議を開催したいと考えている。小委員会の進捗に合わせて審議会を開催する必要があるため、適宜ご相談したい。

3 報告

目黒区マスタープラン〔第6次〕の施策進捗状況について

住宅課長 《「資料3 目黒区住宅マスタープラン〔第6次〕施策進捗状況（令和3年度）」により説明》

会長 現行計画の進捗状況の把握は、改定にあたって重要である。説明にあったとおり、まだ精査が十分ではない状態とのことだが、現時点で気づいたことがあればご意見をいただきたい。また、内容を精査した後、小委員会で議論を深めたい。

進捗が芳しくない事業の原因を分析することが重要である。施策が不要だったのか、必要だが進捗がなかったかの整理が必要。

副会長 1ページ目について、令和2年度より令和3年度の進捗状況が下がっており、想定される傾向とは逆の状況になっているが、原因はわかるか。

住宅課長 ご指摘のとおり、見かけ上進捗状況が後退しているところもある

が、各所管によって評価等が統一されておらず、そうした内容を精査し、小委員会で改めて報告させていただく。

会長 事務局の回答のとおり、今後精査を進めていただきたい。委員の皆様にも、その点を考慮した上で質問やご意見があればいただきたい。

4 その他

会長 委員の皆様お一人ずつから、自己紹介を兼ねてご発言をいただきたい。

- 各委員
- ・コロナ禍で住まい確保の問題が発生しているが、潜在化してしまい、行政への相談がきていない可能性がある。そうした課題の解決にも寄与できるとよい。
 - ・防災連合会の代表として出席している。住宅に関することを勉強しながら、意見が述べられるよう尽力したい。
 - ・住宅政策審議会には初めて出席している。審議会の趣旨について、理解を深めながら議論に参加していきたい。
 - ・建設・不動産業をしている。審議会や計画の内容について、理解を深めながら議論に参加したいと考えている。
 - ・民生委員として活動しているが、この2年はコロナ禍で住宅への見守りができない状況が続いている。コロナ禍の鎮静に伴い、見守りが復活できれば、住まいの実情も見えてくると思っている。そうした点も踏まえて意見を述べていきたいと思っている。
 - ・現行計画の背景をみると、東日本大震災を契機とした防災意識の高まり等について記載されている。今回の改定では、コロナ禍やDX、カーボンニュートラルなど住宅を取り巻く背景や状況が当時とは大きく変わっていると思う。これから、新たな視点で議論を深めていけるよう期待している。
 - ・区民からの相談を受ける中で、目黒区内に住み続けることができない、高齢者の方が区外に転居せざるを得ない状況があると聞いている。そうした状況を皆様に伝えつつ、議論に参加していきたい。
 - ・若い世代の声を皆様に届けられるよう、積極的に意見を述べていきたい。
 - ・議員として地域の相談を受けている中で最も多いのは、目黒区に住み続けられないということ。住まいは、人権の基礎となるものである。先日、渋谷区で、住まいを失った方が暴行にあう事件もあった。安心して住み続けられるにはどうしたらよいか頭を悩ませている。目黒区の住宅動向として、例えば家賃の状況や、引っ越ししたくても資金のない方がどうしているかなど、実態を明らかにするよう調査を深めていただきたい。
 - ・対面で議論ができ、嬉しく思う。改定計画では、地域住民を巻き込み、広くみんなで取り組んでいきたい。住宅政策を取り巻く状況も

変化している中で、特に環境面では、東京都の太陽光パネル設置条例をはじめ、大きな変化が起こっているため、この機会に勉強しながら参加したいと思っている。

- ・妻の祖父の代から目黒区に住んでいる。私自身は、目黒区に引っ越して数年だが、まちづくりには以前から興味を持っており、公募区民に応募した。専門知識はあまりないが、少しでも住宅政策に貢献できるよう努めたい。
- ・目黒区に限らず、都心部のマンションの特徴として、所有者は区外に住んでおり、賃貸に出しているところが多いのではないかと。こうしたマンションの実態を把握していく必要があると思う。調査を通して管理組合の支援や、組合側としても、区と密に連携を図りたいところもあるのではないかと。例えば、台東区では地盤が軟弱なため、マンション実態調査では基礎まで把握するよう努めている。住宅の実態把握の一環で、共同住宅の調査について検討いただけるとよい。
- ・住宅政策審議会の委員としては2期目になる。コロナ禍で区民の住宅に対する必要性は強まっていると思う。目黒区の住宅に関する取り組みについて、DXも取り入れながら、これまで以上に情報発信に力を入れ、住宅施策の検討を続けていただきたい。
- ・専門分野としては、環境計画、災害リスク、アセスメント、地域の合意形成等に関心をもって携わっている。住宅そのものを研究対象としているわけではないが、住宅と地域、周辺環境でどのように合意形成を深めていくか関心を持って取り組みたい。近年は、脱炭素が大きな社会課題となっている。国の政策にも関わっているが、そうした情報もご提供しながら議論を深めていきたいと思っている。

5 閉会

会長 以上で本日の審議会を終了する。

以上は、会議の概要であることを証する。

委員署名

以 上